

## 関西支部九州色彩ネットワーク報告

### 第8回総会及び講演会

### 「全国大会シンポジウム 九州の文化と色彩を振り返って」 ～伝統文化と色彩の分析手法及び今後の研究方策について～

イデア藤田理恵子企画室 藤田理恵子

#### はじめに

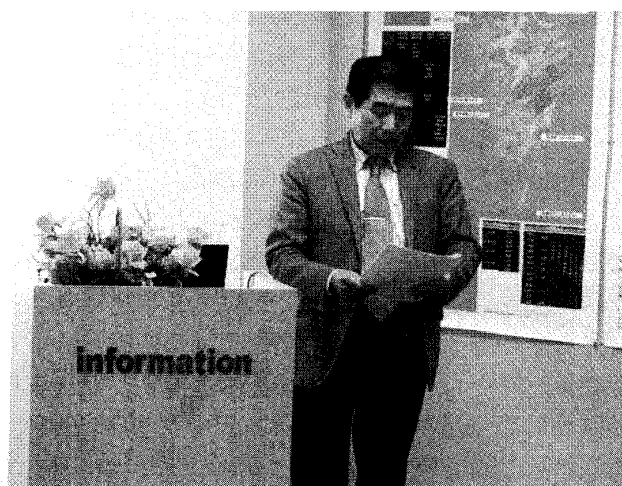
第8回総会及び講演会を去る3月20日に開催した。総会は各議案とも滞りなく進行、承認を得、次いで行われた講演会は講師に株式会社オフィス・カラーサイエンスの大住雅之氏を迎えた。昨年全国大会で九州企画として行われた「九州の文化と色彩」シンポジウム及びポスター発表を振り返る形で興味深い話が聞かれ、テーブルディスカッションへと繋がった。少人数ながら有意義な講演会となり、有志で講師を囲み交流会で締めくくった。

開催日時 2009年3月20日(金)13:20～17:30

会場 (株)INAX福岡ショールーム2階会議室

参加者 総会16名 講演会19名

テーブルディスカッション18名



次年度計画案を説明する中川次期代表

#### 1. 総会

司会 濱本裕子 議長 坂上ちえ子

第一号議案 平成20年度活動報告

藤田代表より報告、承認された。

第二号議案-1 平成20年度会計報告

副島会計担当より年度内見込決算報告、承認された。

第二号議案-2 運営委員の選任

藤田代表より紹介、承認された。

第二号議案-3 代表の交替

新年度より代表を藤田理恵子より中川 貴へとの提案、承認された。

第三号議案 平成21年度活動計画(案)

中川次期代表より説明、承認された。

第四号議案 平成21年度予算(案)

中川次期代表より説明、承認された。

その他 規約の変更があり承認された。

#### 2. 講演

『全国大会シンポジウム 九州の文化と色彩を振り返って』～伝統文化と色彩の分析手法及び今後の方策について～

講師：株式会社オフィス・カラーサイエンス

大住雅之氏

昨年開催された色彩学会全国大会は初の九州大会であり、独自企画としてポスター発表を含む「九州の文化と色彩」シンポジウムが実施された。本講演ではシンポジウムの目的や経緯と、個々の発表に関する特徴的な色彩の分析手法を中心に解説がなされた。

シンポジウムの主旨は、九州固有の「文化と色彩」にスポットをあて調査・発表するものである。沖縄を含む九州全県を網羅し、個々のテーマについて色彩を軸に地域や史実を関連付け、総合的な発表へ発展させる事を目標とした。発表者を募ったところ12件のエントリーがあり、支援体制として月1回の勉強会を実施した。基礎知識を習得するとともに、それぞれのテーマについてメンバー間で自由闊達なディスカッションを行い、更に中間報告を纏めるなどメリハリをつけることを心がけた。その甲斐もあり、シンポジウムは高い評価を受け、各発表者の努力が報われた形となった。

12件の発表は、「赤」「紫」「藍」「黒」「白」「五色」の色や、「神事・祭り」「環境・建築物」「染織」「工芸」といったカテゴリーのマトリックスに分類し、紹介された。

更に本講演では「貴族文化」「庶民文化」「武家文化」と「宗教文化」の相互関係についても言及された。「赤」の文化では、大分県の宇佐神宮と沖縄県の首里城について、分光光度計を用いた測定に関するエピソードを交えた話があった。また、鹿児島県の薩摩切子に関してはその特徴である「ぼかし」の構造上のメカニズムについて解説された。「紫」の文化は福岡県の大宰府がテーマで、当時の紫に対する貴重さの説明と、今回は紫草の栽培が困難であるため染色再現を失敗したが、継続して挑戦していきたいとの発表者の気持ちが伝えられた。「藍」の文化は福岡県の山笠と久留米絨で、前者は祭りの組織的な運用体制と配色についての詳細な調査であったこと、後者は素朴な庶民文化に始まる伝統文化の発展経緯と、分光光度計を用いた天然藍と合成染料を用いた染色の相違点について説明があった。「黒」の文化は鹿児島県の大島紬と熊本県の肥後象眼であるが、大島紬では発表者自身が現地に赴き染色を体現して工程解説を行ったこと、後者は最新のレーザー共焦点顕微鏡を用いた表面の3次元構造の測定結果などを交えた話があった。「白」の文化では、佐賀県の伊万里焼をテーマとし、素地の白を基本と捉え、発表者自身が現地にて測定を行ったこと、データをCIE白色度と色味指数の直交座標上にプロットし、時代経過との関連が説明された。「五色」の文化では宮崎県の夜神楽、長崎県の長崎くんち、福岡県の博多織を取り上げ、紹介に先立ち五色の解説が行われた。夜神楽では現地調査の状況と発表者の夜神楽への思いが紹介され、長崎くんちでは博多山笠との対比による特徴の解説があり、同様に博多織については庶民文化的な久留米絨との対比で、献上品としての貴族文化的な特徴の解説、更に古典的な染色手法と合成染料での染色結果についての測定例の紹介があった。

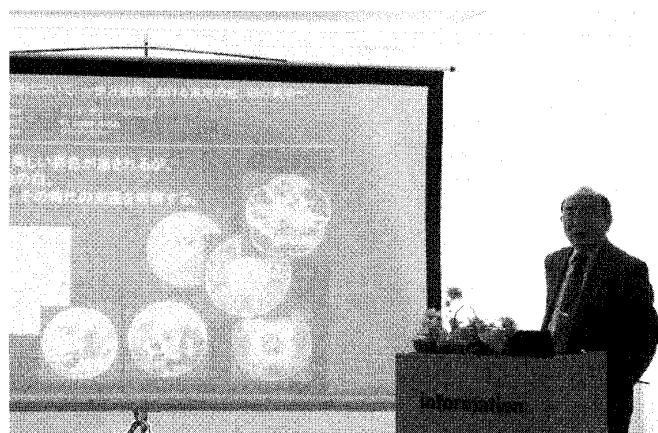
最後に今後の方策として、①発表者の多くが、まだやり残した思いがあり勉強会を継続することで、より完成度の高い研究に結び付けていくこと、②地場産業との連携により振興に寄与すること、③文化関連機関の研究者と連携して研究会、勉強会を実施することなどが挙げられた。九州に住む我々が今まで何気なく見過ごしてきた「文化と色彩」をあらためて知ることが出来、とても充実した意義深い講演会であった。

### 3. テーブルディスカッション

司会 濱本裕子

コーディネータ 上田桂土倅、大住雅之、黒田尚美、坂上ちえ子、津田比都美、中野知子

まず、コーディネーター(ポスター発表者)が研究に至った経緯などを含め自己紹介、講演をもとに自由な

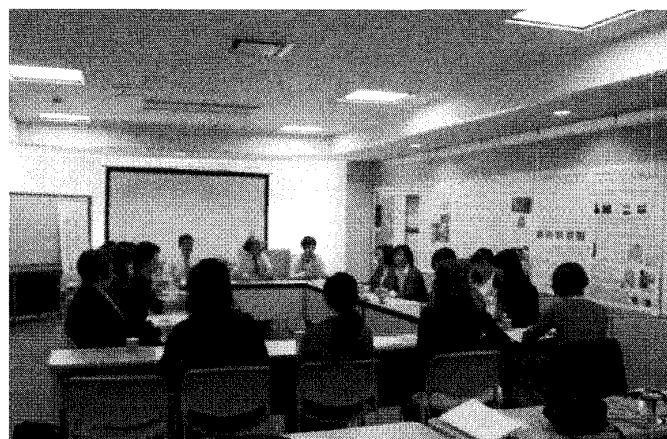


ポスターをもとに解説する大住氏

ディスカッションが行われた。中でも測色についての質問が多く出された。「経年により変退色し、作られた当時の色と異なる筈だが、そのような現状での測色に果たして意味はあるのか?」という問いに対し、「現在の状態を正確にアーカイブする意義があり、また耐光促進試験装置を使った結果からシミュレーションを行い過去の状況を逆推定する研究例も出ている」という回答が得られた。時とともに話題も広がり、遠路関西から学生の参加もあり和気あいあいとした充実したディスカッションとなった。

### まとめ

参加人数こそ少ないものの、コンパクトに纏まった会であった。早いもので九州色彩ネットワークも発足から9年目となり、今回の第8回総会及び講演会も皆様のお陰で無事に終了出来た。私こと藤田は今期で代表を退く事となったが、今まで多くの方々にご支援、ご協力を賜り感謝に堪えない。この場を借りて心からお礼を申し上げたい。中川新代表のもと、今後の九州色彩ネットワークの益々の発展を願ってやまない。



テーブルディスカッションの様子